

市のCM作製のための取材から提案・放映までの活動

—大学・ボランティア・CATV との連携を通して—

半田市立雁宿小学校 教諭 丹波 信夫

E-Mail:tamba@kariyado-e.ed.jp

キーワード：小学校3年生，大学生，ボランティア，CATV，CM作製，地域学習

1. はじめに

小学校3年生が、社会貢献を考えているボランティアの大学生といっしょになり、IT機器を活用して、市の特徴のあるものを取材し、それをまとめて発表する活動を展開する。最後は、取材した事をもとに市をPRするCMを作製して、CATVの担当者に採択放映の提案をする。そして、CATVにCMとして放映される事により、自分たちにも大人に提案できる力と企画を実行する力があるのだという自信と満足感・成就感を持たせたいと考えた。

2. 企画の実践

- 半田市観光ボランティア、日本福祉大学、CATV 愛知に小学校3年生の取材活動の協力の依頼をした。日本福祉大学には、ボランティアの学生募集のお願いとともに必要な施設設備の活用もお願いした。
- 情報の共有・各種打ち合わせのために、小学校側、大学側、その他ボランティアの方々やアドバイザーの方々のメーリングリストを立てた。
- ボランティアの学生には「子供との交流」「映像の編集」「WEB制作」において支援してもらったこととした。
- 子供たちとボランティアの学生たちとの楽しい交流会をおこなった。
- 半田市に関する資料を集めて、取材対象を「新美南吉」「赤レンガ建物」「蔵のまち」の3つに決定した。
- 子供たちを小グループ（5・6人）に分けて取材の計画を立てた。（インタビュー計画書作成）**写真1**
- 小グループにボランティアの学生1人が入り、市内をウォークラリーしながら、撮影・インタビューなどの取材をした。（デジタルビデオ・デジタルカメラ・GPS活用）**写真2-1 ～ 写真2-5**



写真1



写真2-1



写真2-2



写真2-3



写真2-4



写真2-5

- 取材したことを整理して、デジタルカメラの画像とコメントをまとめて大地図を作る。**写真3**
- この後、取材時に撮影した動画を学生が短いクリップ映像にして並べてくれたので、自分の主張したいことをもとにクリップ映像を選びCMを作った。

写真4・5

- 各グループの作った1分間CMの発表会・審査会をおこなった。その結果、3つのグループのCACでのCM放映が決定した。**写真6**

- 選ばれた3グループのナレータが大学で録音をした。**写真7**
- 児童製作の全CMが各種の町おこしイベントや愛知万博市民パビリオンで上映されることが決定する。



写真4



写真5



写真3



写真7



写真6

3. 成果と課題

- 児童たちは各種取材の方法を知り実行し、CMとしてまとめて放映されたり各種イベントで採用されることにより、とても大きな自信と満足感を得ることができた。
- 大学生たちと児童たちは一方的な支援をするされる関係ではなく、それぞれが目的意識を持って活動することができた。
- 学生ボランティアとの交流において、活動時間がお互いの授業中であり、活動時間の設定がむづかしかった。